

研究開発プログラム及び研究開発課題 に対する評価について

2026年10月

科学技術振興機構 経営企画部

目次

1：評価プロセス

戦略的創造研究推進事業を例にご説明

2：提案書・報告書の 合理化・簡素化・共通化

評価疲れにならないための、事業横断での取り組みを紹介

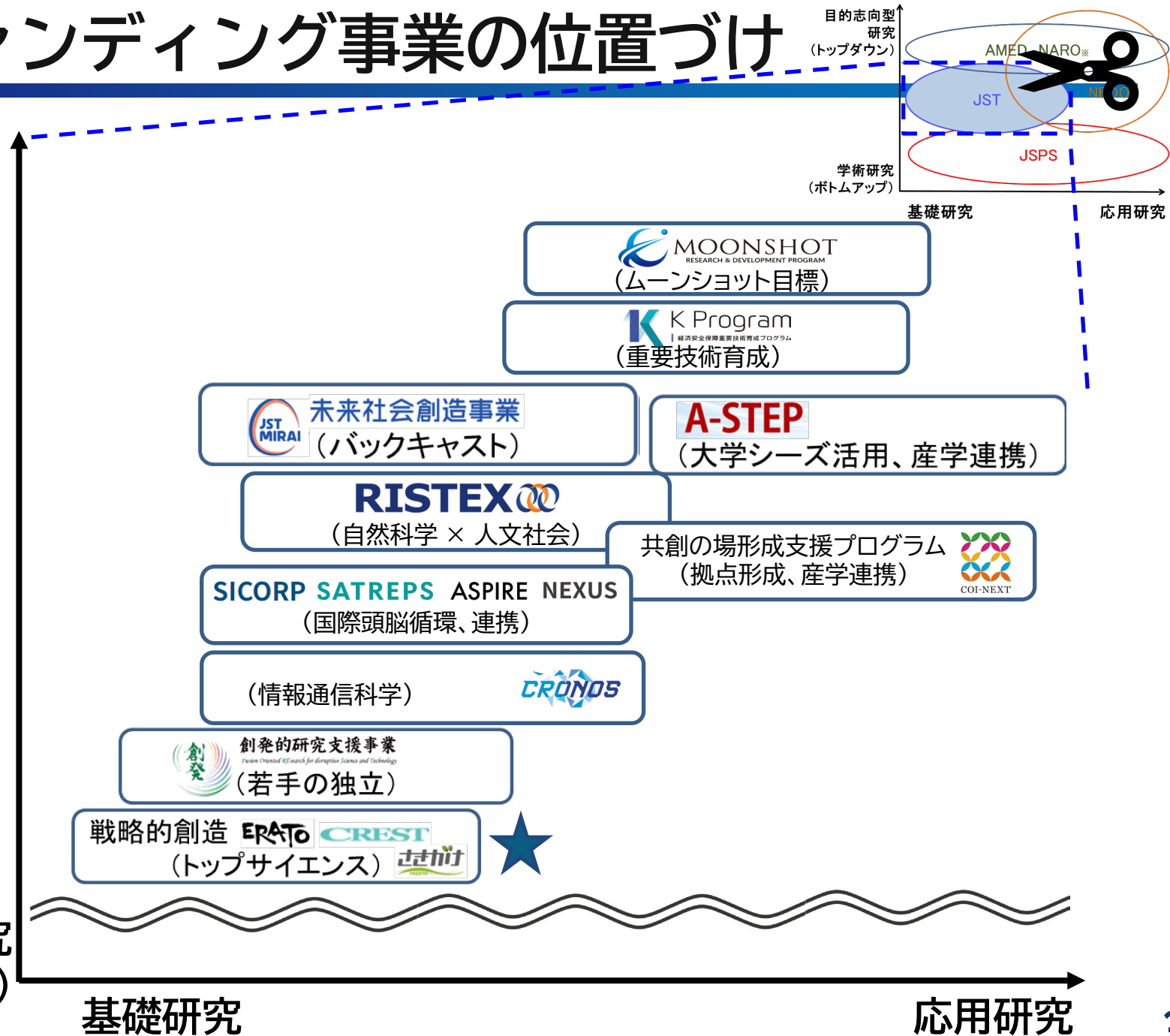
JSTファンディング事業の位置づけ

目的志向型研究
(トップダウン)

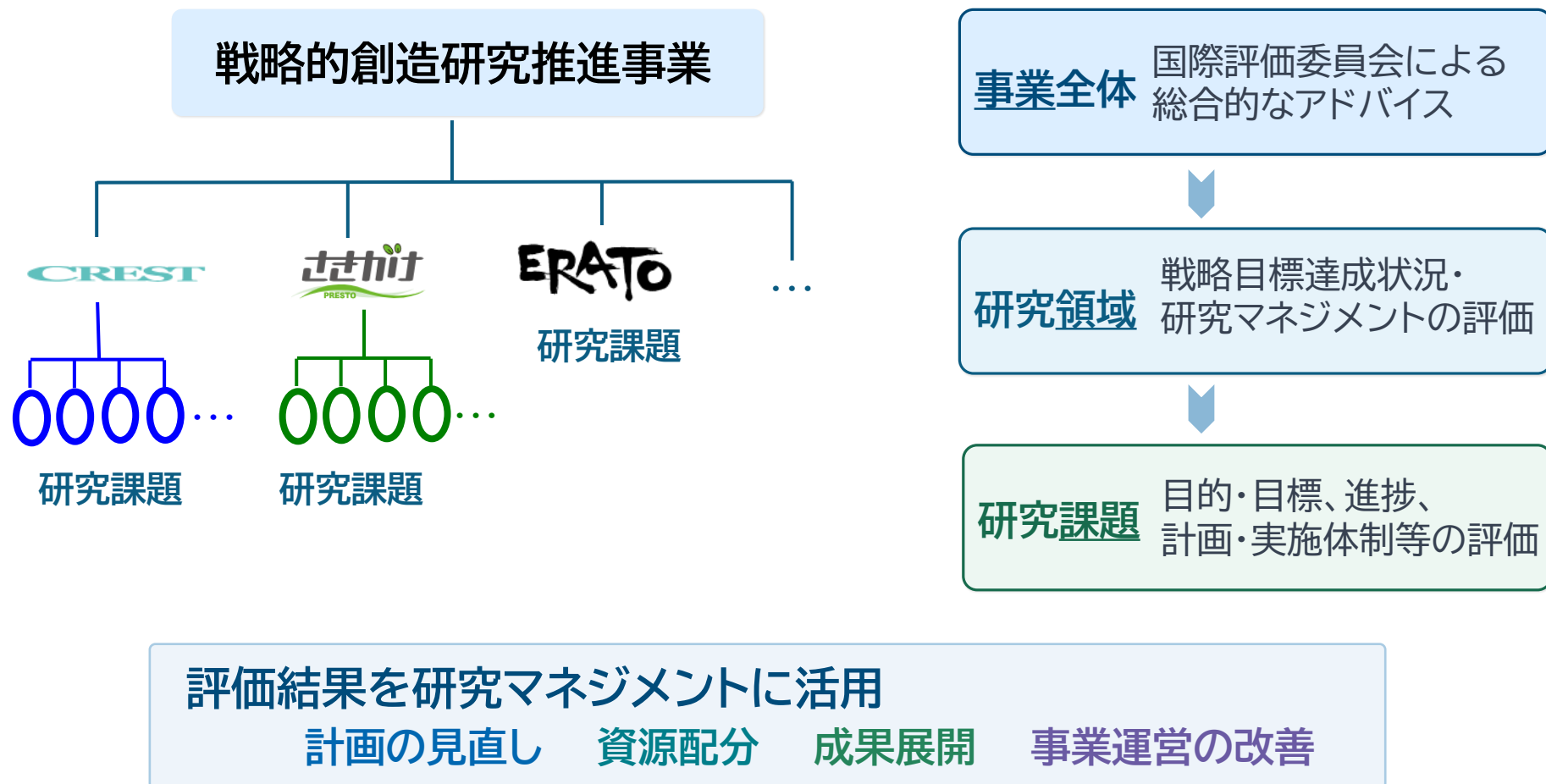
学術研究
(ボトムアップ)

基礎研究

応用研究



1: 評価プロセス



※JST全体の統一規則ではなく、戦略的創造研究推進事業における評価プロセスを例示。

1: 評価プロセス

事業全体の評価

■ 戦略的創造研究推進事業(新技術シーズ創出)では、事業の総合的な評価に関し必要な事項について審議するため、2005年より5年に1度、国際評価委員会を開催。これまでに5回実施し、直近では2025年10月8日に第5回国際評価委員会を行っている。

【第5回国際評価委員会の状況】

- 評価委員長: 大野英男先生(東北大学 総長特別顧問)
- 海外委員(名字のアルファベット順)



国名	機関名	出席者名	役職
1 カナダ	NSERC	Alejandro Adem	President
2 スウェーデン	SRC	Katarina Bjelke	Director General
3 フランス	ANR	Claire Giry	President and CEO
4 シンガポール	A*STAR	Ng Huck Hui	Assistant Chief Executive of the Biomedical Research Council
5 英国	UKRI	Christopher Smith	AHRC Executive Chair
6 ノルウェー	Science Europe、RCN	Mari Sundli Tveit	President、Chief Executive

1: 評価プロセス

研究領域の評価

< CRESTのスケジュール >

1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 | 6年次 | 7年次 | 8年次 |



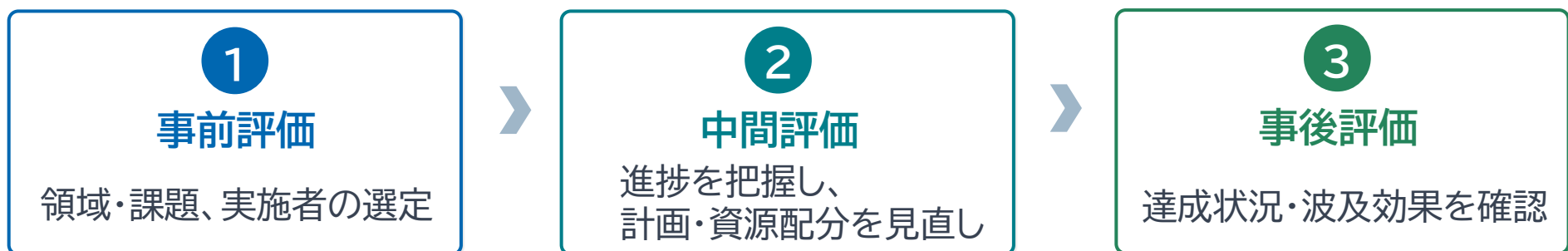
【研究領域の評価の目的】

- ・領域中間評価 研究成果の最大化に向けて、プロジェクトマネジメントを改善する
- ・領域事後評価 研究の実施状況、研究成果、波及効果を明らかにする
プログラム運営を改善する
評価結果を、より応用的なプログラムへの橋渡しに活用する

1: 評価プロセス

研究課題の評価

「研究課題」のライフサイクルを通じた評価



・研究課題の選定前に実施

・研究期間5年以上の研究課題が対象
・原則、3年ごとを目安に実施

・研究特性や発展段階に応じて、
研究終了後または
終了前の適切な時期に実施

1: 評価プロセス

評価実施体制

研究課題の評価

研究主監 (PD)

◎: 議長

◎辰巳 砂 昌弘 (大阪公立大学エグゼクティブアドバイザー・名誉教授)
五十嵐 道子 (フリージャーナリスト)
上田 正仁 (東京大学大学院理学系研究科 教授)
熊ノ郷 淳 (大阪大学 総長)
萩谷 昌己 (東京大学 名誉教授/Beyond AI研究推進機構長)
益 一哉 (産業技術総合研究所 量子・AI融合技術ビジネス開発
グローバル研究センター センター長)

研究主監会議

制度全体を総括し、制度改革を主導、運営方針等を立案

- ・制度／運営／研究評価の点検・改革の立案検討
 - ・研究領域設定、研究総括指定のための事前評価
 - ・研究領域への資源配分決定 等
- *年10回程度開催
*第1回PD会議(2007年)から現時点で196回開催(8月現在)

CREST／さきがけなどの研究領域

研究総括 (P0)

ネットワーク型研究所の研究所長として研究領域をマネジメント

領域アドバイザー



- ・研究課題の選定、課題中間/事後評価
- ・研究進捗状況を把握し、研究課題予算配分等を実施

研究課題

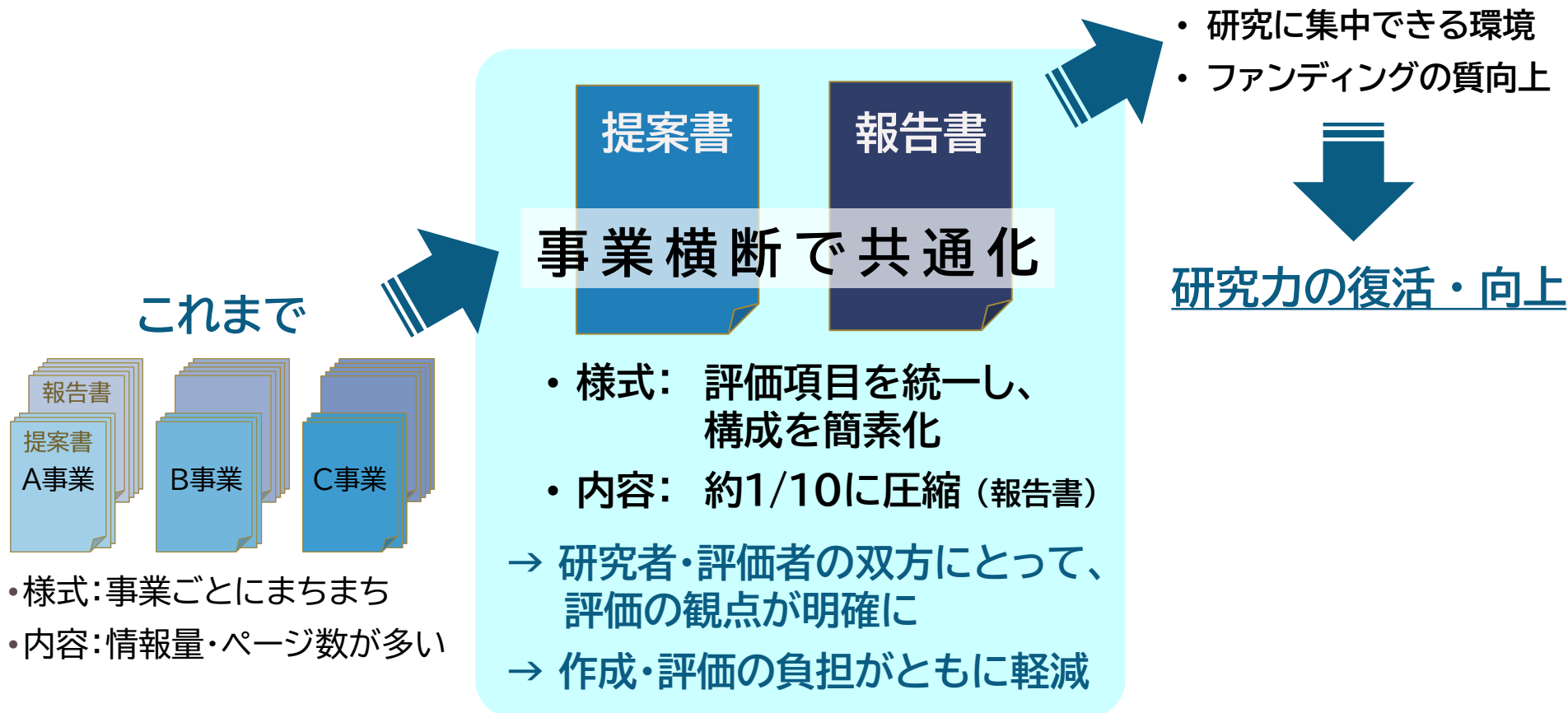
研究課題

研究課題

.....

2: 提案書・報告書の合理化・簡素化・共通化

- ◆研究者の時間確保のため、更なる負担軽減に向けて、
事業間の差異や不統一により生じる作業負担・不便の解消に向けた取り組みを実施。



提案書評価項目の共通化

評価項目等の構成：

評価項目	標準的な評価基準	提案書様式
目的・趣旨	事業等の趣旨に合致し、事業等が目指す成果の創出が期待されること。	研究構想
独創性・優位性	国内外の動向等を踏まえ、提案内容が独創性・優位性を有していること。	独創性・優位性
目標・計画	実施期間内に達成する目標、実施計画及び予算計画が具体的かつ適切であること。	目標・実施計画／ 予算計画
実施体制	提案内容の遂行に最適な実施体制を構築していること。	実施体制
遂行能力	提案内容の遂行に必要な活動実績及び責任能力を有していること。	研究・活動実績

【参考】

報告書評価項目の共通化

評価項目等の構成（中間／事後評価用）：

評価項目	評価基準	報告書様式
—	—	概要
目的・目標の達成状況	・代表的な成果 ・その他の取組み・成果、など	目的・目標の達成状況
今後の計画および展望	・実施期間中の計画・展望 ・企業への技術移転、など	今後の計画および展望
計画・実施体制等の妥当性	・研究実施体制、 ・研究費執行状況、など	計画・実施体制等の妥当性